

特別企画

SDGsに取り組むクラブと協議会

熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 (SCS火の国クラブネット) ＜熊本県熊本市＞

現在、日本でも話題の一つとなっているのが「持続可能な開発目標(SDGs)」です。企業や個人でもすでに取り組みを行っている人は多いのではないのでしょうか。スポーツがSDGsに貢献できることは多く、国では地域や自治体の取り組みに大きな期待が寄せられています。

今回は、先行事例となるよう、総合型クラブとSDGsの関係について考え、取り組みを行う都道府県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会をご紹介します。

★SDGs(Sustainable Development Goals)とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地域上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものである。

(外務省HP: JAPAN SDGs Action Platformより抜粋)

1 協議会概要

58クラブが加入し、交流大会・研修会を毎年実施

熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会(呼称:SCS火の国クラブネット)は、クラブ同士が“知恵”や“汗”を出し合い、互いに手を取り合い、切磋琢磨し、熊本県における総合型地域スポーツクラブの更なる活性化を図ることを目的として、平成22年2月11日に発足しました。

本協議会には現在、58クラブが加入をしています(令和3年5月現在)。クラブは、北・中央・南の各ブロックに所属しています。SCS火の国クラブネットは、各ブロックおよび県スポーツ協会から理事を選出し、各クラブからの意見や要望を反映し、各クラブが主体となって運営をしています。

例年、県内のクラブが一堂に会して、交流を深める県内クラブ交流大会やクラブ運営に関する研修会を行っています。また、各ブロックにおいても交流会や会議を開催しています。

本協議会では、研修会を通じて、総合型クラブの運営に関する知識やノウハウを身につけ、各クラブの運営に役立てていただくことや、各クラブの情報を交換・共有することを目的として研修会を実施しています。研修会の開催については、毎年輪番で担当ブロックを回しており、令和元年度は北ブロックが担当でした。

北ブロックで会議をされる中で、SDGsの話題が挙がり、研修会のテーマとして設定することとなりました。特にSDGsが「目標とターゲットがすべての国、すべての人々、およびすべての部分で満たされるよう、誰一人取り残さない」ということを原則としていることを知り、我々総合型クラブは「誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツや文化活動を親しめる環境づくりや、地域課題の解決に寄与すること」を目的としているため、SDGsの理念に精通するものがあるのではないかという意見にまとまりました。

とはいえ、SDGs自体をまだまだ知らない人も多いだろうということで、既に総合型クラブ関係者でSDGsの研修を受けていた方を通じて、本県の「SDGs de 地方創生」公認ファシリテーター熊野たまみ氏、松田博氏をご紹介いただき、研修会の講師を務めていただきました。

研修会に専門家を招きSDGs講義

講義の前段では、ファシリテーターの熊野氏にSDGsの概要を説明いただき、風水害を含めた環境問題や生活の変化等を含め、SDGsの目的を示されました。SDGsとスポーツの関係については、SDGsへの取り組みがスポーツでも期待されており、健康促進やフェアに競い合う精神や平和、ジェンダー等の理解促進につながるとのことでした。

SDGsのゴールとスポーツも大きな関わりがあり、オリンピック・パラリンピックでも取り上げられています。具体例として「みんなのメダルプロジェクト」では、携帯電話等を集めてメダルを作るなどの取り組みがあるとのことでした。

なお、地域のスポーツ現場でもできる取り組みとして、ペットボトルを持ち込まないことや、ごみの分別を細かく行うことなど、導入可能な内容も織り込まれてお話されました。

好評だったゲーム形式の研修

また、途中からカードを使ったゲーム形式で研修が進められたこともあり、参加者同士で話す時間も多かったことから、大変理解を深めることができたようです。参加者からは、「ゲーム形式にすると盛り上がった。他の方の協力もあり、地域の一人ひとりのつながりが大切だと改めて感じた」「クラブ運営に生かしていきたいと思う」といった声が聞かれました。

【ゲームの概要】

「SDGs de 地方創生」では、参加者をゲーム内で行政担当と市民に分け、まちの状態を「人口」「経済」「環境」「暮らし」の指標で表し、人口減少を防いでより良いまちをつくることをゴールとします。カードゲームで行うため、各自楽しみながら課題解決のための手立てを考えることができます。

※詳細はホームページ参照 ⇒ 「SDGs de 地方創生」 <https://sdgslocal.jp/>



(左から講師2人とアシスタント1人)
松田氏、熊野氏、神田氏



ゲームで使った「地域の状況メーター」



参加者の様子



参加者の様子



ゲームで使った「カード」



振り返りの様子

スポーツ現場でもSDGsに取り組む契機に

今回SDGsを初めて取り上げての研修でしたので、SDGsを知らない参加者が多かったようですが、身近な課題として、スポーツ現場でも取り組めることは何かを考えることができました。

今後、総合型地域スポーツクラブが関わる事業は、このSDGsの観点を含めて運営に生かしていただきたいと感じています。実際に、あるクラブではイベント開催時に資料をビニール袋に入れて配っていたのを、不要になったチラシを編み込んで作った手作りの紙袋に変更されるなど、行動に移しているところもあります。

当連絡協議会ではSDGsに向け具体的には議論されていないので、今のところは何とも言えないのが現状ですが、事務局としては、SDGsの取り組み例にもあったように、スポーツ交流イベントや各種事業をする際はペットボトルを使わないことやごみの分別等が取り組めるのではないかと考えております。

SDGsの目指す「誰一人取り残さない未来」に向けて、まずは身の回りで取り組めることは何かを考えるとともに、総合型クラブとして取り組めることは何かを、本協議会としても引き続き情報発信していきたいと感じています。



美里町にある「元気・夢クラブ」で手作りの紙袋を作成する様子

コロナと豪雨災害で恒例事業が頓挫 オンラインセミナーで対処

本協議会では、例年、県内クラブ交流大会や研修会を本協議会加入クラブが一堂に会して実施してきましたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症や令和2年熊本豪雨災害の影響により、予定した形での事業実施はかないませんでした。

しかしながら、各地域、そして総合型クラブの方々のためになることを何かできないかと、オンラインを活用したセミナーの開催や、被災地の復旧・復興支援事業を実施してきました。

熊本地震で得た教訓は、ネットワークの重要性

平成28年に発生した熊本地震発生後、いかに日頃からのネットワークが重要かということを感じ知らされた日々でしたので、今後も総合型クラブの方々がいつでも相談や情報交換ができる仕組みをつくり、地域間・クラブ間のネットワーク構築に寄与できればと思います。

そのためにも、今一度総合型クラブの原点である「スポーツ振興」「地域づくり」を考え、地域課題の解決に取り組む組織として、自クラブを見つめ直すような機会を設定していきたいと思えます。

（熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 事務局 太田黒 尚子）

協議会プロフィール

設立年月日	平成22年2月11日
所在地	熊本県熊本市東区平山町2776県民総合運動公園陸上競技場内 (公益財団法人熊本県スポーツ協会内)
運営	加入クラブ数58クラブ(令和3年5月現在)
特徴	SCS火の国クラブネットは、各ブロックおよび県スポーツ協会から理事を選出し、クラブの意見や要望を反映し、クラブが主体となって運営をしています。 県内のクラブが一堂に会して、交流を深める県内クラブ交流大会やクラブ運営に関する研修会を行っています。また、各ブロックで交流会や会議を行っています。
連絡先	〒861-8012 熊本県熊本市東区平山町2776 TEL 096-388-1581 FAX 096-388-1584 URL http://kumamoto-sports.or.jp/scs/ E-Mail main@kumamoto-sports.or.jp